

# 新植地におけるニホンジカの効率的な捕獲技術の開発

平成 26 年度～28 年度（国補）

福本浩士

近年、ニホンジカ（以下、シカ）の個体数増加により農林業被害が増加している。スギ、ヒノキの新植地では食害を回避するために周囲にシカ侵入防止柵を設置しているが、十分に機能しているとは言えず、今後は新植地におけるシカの捕獲も必要となってくる。今年度は、移動組立式囲い罠を用いて効率的に捕獲するための誘引餌の検索、設置場所の検討を行った。

## 1. 移動組立式囲い罠を用いた捕獲のための誘引餌の検索と設置場所の検討

移動組立式囲い罠（商品名：サークル D）を用いて効率的に捕獲するため、大紀町内の新植地にヘイキューブとしょうゆの搾り糟を給餌してその誘引効果を検証した。昨年度は、新植地の中央部付近に囲い罠を設置したが、今年度は新植地と壮齢林の境界付近に囲い罠を設置した。赤外線センサーカメラ（商品名：SG560P-8M）を設置して、シカの出没状況、餌の採食状況を確認した。なお、本研究ではカメラの撮影間隔が 30 分以上の場合、異なる出没イベントと定義した。

表-1 に給餌試験の結果を示す。給餌試験は、①給餌無、②ヘイキューブ 4 kg、③ヘイキューブ 4 kg としょうゆの搾り糟 1 kg、④しょうゆの搾り糟 1 kg、⑤ヘイキューブ 4 kg の順で実施した。

給餌しない試験ではシカの出没は 20 回確認され、1 日あたりの出没回数は 0.4 であった。ヘイキューブ 4kg を給餌した試験では、シカは給餌の翌日から採食を開始し、給餌日を含めて 4 日間で完食した。完食までの出没回数は 15 回で、1 日あたりの出没回数は 1.3、最大出没頭数は 5 頭であった。ヘイキューブ 4 kg としょうゆの搾り糟 1 kg を給餌した試験では、シカは給餌当日から採食を開始した。完食までの出没回数は 7 回で、1 日あたりの出没回数は 2.1 であった。しょうゆの搾り糟 1 kg のみを給餌した試験においてもシカは給餌当日から採食を開始した。完食までの 1 日あたりの出没回数は 0.2 であった。ヘイキューブ 4 kg を再度給餌した試験では、完食までの 1 日あたりの出没回数は 1.8 であった。

これらの結果から、ヘイキューブはシカの誘引効果が高い餌であるとともに、しょうゆの搾り糟を添加することでその効果が増大する可能性があることが判明した。また、昨年度に試験を実施した新植地の中央部分、今年度に試験を実施した新植地と壮齢林の境界部分、ともにヘイキューブでシカを誘引できたことから、シカの出没頻度が高い場所であれば森林の構造によらず囲い罠に誘引できると考えられた。

表 1. 新植地と壮齢林の境界部分で実施した誘引試験の結果

給餌の種類	調査期間	給餌日	採食 開始日	完食日	完食まで の日数	完食までの 出没回数	完食までの 出没回数/日	最大撮影 頭数
給餌無	11/4～12/19				(46)	(20)	(0.4)	3
ヘイキューブ(4kg)	12/19～1/11	12/19	12/20	12/22	4	5	1.3	5
ヘイキューブ(4kg)+しょうゆ糟(1kg)	1/11～1/16	1/11	1/11	1/16	7	15	2.1	4
しょうゆ糟(1kg)	2/6～2/10	2/6	2/6	2/10	5	1	0.2	2
ヘイキューブ(4kg)	2/10～2/10	2/10	2/12	2/13	4	7	1.8	4

※ヘイキューブとしょうゆ糟は、1/13に現地で攪拌する処理を実施した。